

■使用評価マニュアル：北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト：CASBEE北九州_2014(v.2.0)

1 建物概要			
建物名称	(仮称)ニューガイアソーラーレ下曾	BEE	0.8 BEEランク B- ★★

2 重点項目への取組み度			
重点項目	得点 [※] /満点	取組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.0 /5		ふつう
2 地球温暖化対策の推進	3.5 /5		ふつう
3 豊かな自然環境の確保	1.3 /5		がんばろう
4 高齢社会への対応	1.0 /5		がんばろう
[※] 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4点以上 ふつう 3点以上 がんばろう 3点未満	

3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア			
使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2014年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.0	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減	スコア 3	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数	スコア 3
		Q2/ 3 対応性・更新性	スコア 3
グリーン購入法における特定調達品目(ビニル系床材使用)。		標準的な仕様です。	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.5	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮	スコア 4	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水	スコア 3
ライフサイクルCO2概算値 排出率74%		主要水栓に節水コマ使用。	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 1.3	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出	スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア 2
		LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善	スコア 1
建築地はショッピングセンター跡地で、既存自然物は無し		今回計画も緑地無し。	
4 高齢社会への対応		スコア平均 1.0	
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画	スコア 1	主な指標	
特定まちづくり施設新築等未達成		建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅: BPI値、住宅: 省エネ等級 等級3	
		建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅: BEI値、住宅: - 0.52	
		外構緑化指数 0 %	
		建物緑化指数 0 %	

: 入力欄

: CASBEE-建築(新築)の採点結果から転記してください。

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ニューガイアソーラー下曽根新築工事	階数	地上4F
建設地	北九州市小倉南区下曽根4丁目2084-1の一部	構造	RC造
用途地域	第二種住居地域、法22条地域	平均居住人員	72人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年12月 予定	評価の実施日	2017年11月1日
敷地面積	1,142㎡	作成者	山下 明洋
建築面積	681㎡	確認日	2017年11月1日
延床面積	2,083㎡	確認者	山下 明洋

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レダ-チャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合 全戸個別供給型太陽光発電マンション(ニューガイア下曽根から供給)として、クリーンマンションを目指しています。	その他 特になし	
Q1 室内環境 生活しやすい環境を提供します。	Q2 サービス性能 メガバイトクラスの光回線を装備	Q3 室外環境(敷地内) 周辺環境に調和させたデザインとします。
LR1 エネルギー 2面開口を取っています。	LR2 資源・マテリアル 環境にやさしい資材使用を努力します。	LR3 敷地外環境 環境に配慮します。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2014年版
(仮称)ニューガイアソラーレ下管根新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.7
Q1 室内環境			0.40		-			2.9
1 音環境		3.0	0.15	3.0	1.00			3.0
1.1 騒音		3.0	0.50	3.0	0.50			
1.2 遮音		3.0	0.50	3.0	0.50			
1 開口部遮音性能		3.0	1.00	3.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	-	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		3.0	-	3.0	-			
2 温熱環境		2.3	0.35	3.0	1.00			2.7
2.1 室温制御		2.0	0.63	3.0	1.00			
1 室温		-	-	-	-			
2 外皮性能		2.0	1.00	3.0	1.00			
3 ゾーン別制御性		3.0	-	3.0	-			
2.2 湿度制御		-	-	-	-			
2.3 空調方式		3.0	0.38	-	-			
3 光・視環境		2.3	0.25	3.5	1.00			3.0
3.1 昼光利用		1.8	0.30	4.0	0.50			
1 昼光率	u=3.5	1.0	0.60	5.0	0.50			
2 方位別開口		3.0	-	3.0	0.30			
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	3.0	0.50			
1 昼光制御		2.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境		3.0	0.25	3.0	1.00			3.0
4.1 発生源対策		3.0	0.60	3.0	0.63			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	1.00			
4.2 換気		3.0	0.40	3.0	0.38			
1 換気量		3.0	0.50	3.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	-	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理		-	-	-	-			
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-			
2 喫煙の制御		-	-	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.2
1 機能性		2.2	0.40	4.4	1.00			3.6
1.1 機能性・使いやすさ		1.0	0.40	5.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応	1Gbit光回線	3.0	-	5.0	1.00			
3 バリアフリー計画		1.0	1.00	3.0	-			
1.2 心理性・快適性		3.0	0.30	3.5	0.40			
1 広さ感・景観	居室天井高H=2.5m	3.0	-	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	3.0	-			
3 内装計画		3.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理		3.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性		2.8	0.30	-	-			2.8
2.1 耐震・免震		3.0	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	2.4	0.20	[Cross-hatched]	-	[Yellow]
	2	給排水・衛生設備	3.0	0.20		-	
	3	電気設備	2.0	0.20		-	
	4	機械・配管支持方法	3.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備	1.0	0.20		-	
	5	通信・情報設備	3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			[Cross-hatched]	-	3.2	0.50	[Yellow]
1	階高のゆとり	階高H=2.965m		-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			-	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	1.00	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-		
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-		
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-		
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.8
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.1
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	[Cross-hatched]	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI 非住宅 0.52 住宅(専有部) 0.67	3.2	0.50	-	3.2
集合住宅以外の評価(3a.3b)			[Cross-hatched]	-	[Cross-hatched]	-	
集合住宅の評価(3c)			一次エネルギー消費率 0.65%	3.2	1.00	-	
4 効率的運用			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	3.0
集合住宅以外の評価			[Cross-hatched]	-	[Cross-hatched]	-	
4.1 モニタリング			[Cross-hatched]	-	[Cross-hatched]	-	
4.2 運用管理体制			[Cross-hatched]	-	[Cross-hatched]	-	
集合住宅の評価			3.0	1.00	[Cross-hatched]	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	[Cross-hatched]	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	[Cross-hatched]	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	[Cross-hatched]	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	[Cross-hatched]	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	1.00	[Cross-hatched]	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			-	-	[Cross-hatched]	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	[Cross-hatched]	-	3.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	[Cross-hatched]	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	[Cross-hatched]	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	
注: ビニル系床材(NSシート)、バルコニー、開放廊下							
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	[Cross-hatched]	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	[Cross-hatched]	-	
1 消火剤			-	-	[Cross-hatched]	-	
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	1.00	[Cross-hatched]	-	
3 冷媒			-	-	[Cross-hatched]	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2概算値 排出率74%	4.0	0.33	[Cross-hatched]	4.0
2 地域環境への配慮			2.3	0.33	[Cross-hatched]	-	2.3
2.1 大気汚染防止			燃焼機器不使用	5.0	0.25	[Cross-hatched]	-
2.2 温熱環境悪化の改善				1.0	0.50	[Cross-hatched]	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.3	0.25	[Cross-hatched]	-
1 雨水排水負荷低減			-	-	[Cross-hatched]	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33	[Cross-hatched]	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.33	[Cross-hatched]	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			1.0	0.33	[Cross-hatched]	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	[Cross-hatched]	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	[Cross-hatched]	-	
1 騒音			3.0	0.50	[Cross-hatched]	-	
2 振動			-	-	[Cross-hatched]	-	
3 悪臭			3.0	0.50	[Cross-hatched]	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	[Cross-hatched]	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	[Cross-hatched]	-	
2 砂塵の抑制			[Cross-hatched]	-	[Cross-hatched]	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	[Cross-hatched]	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	[Cross-hatched]	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	[Cross-hatched]	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	[Cross-hatched]	-	